

# 消費者物価指数 —昭和36年5月分より抜粋—

総 理 府 統 計 局

## 5月の全都市消費者物価指数

全都市消費者物価は、年初、野菜の影響で上昇を示し、3月からは下落しはじめたが、4月は国鉄運賃、私立学校の授業料などの値上がりで、再び上昇を示していた。

5月の全都市消費者物価は、総合指数111.2となり、前月に比べ(－)0.6%下回つた。これは、野菜の続落のほか、魚介および果物などの食料物価が大きく下落したためである。

	総 合	食 料	被 服	光 熱	住 居	雑 費
昭和36年4月	∩ 111.9	109.0	98.5	117.2	134.7	∩ 117.6
5月	111.2	106.4	100.3	116.8	136.3	118.9
対前月比(%)	－ 0.6	－ 2.4	1.8	－ 0.3	1.2	1.1
対前年同月比(%)	4.1	2.1	3.2	5.3	7.7	6.7

(∩: は訂正数字)

費目別にみると……

食料指数は、前月に比べ(－)2.4%と大きく下落を示した。これは引きつづく野菜(－)7.9%の下落、ならびに魚介類(－)7.9%、鶏卵(－)4.5%、夏みかん(－)9.9%、りんご(－)5.8%などの食料物価が大きく値下がりを示したためである。

被服指数は、仕立代(+)10.6%、せんたく代(+)1.3%などが上がるとともに、履物類にも微騰がみられたので、(+)1.8%前月を上回つた。

光熱指数は、前月に引きつづく木炭、れん炭の季節的値下がり(－)0.3%微落した。

住居指数は、上敷ゴザ(+)6.1%、畳表(+)2.8%、ベニヤ板(+)2.4%、板材(+)2.0%など修繕材料(+)5.8%の値上がり、一部都市で入浴料の引上げが行なわれたので、前月に比べ(+)1.1%の騰貴を示した。

つぎに前年同月に比べると、総合指数(111.2)は、(+)4.1%前年を上回っている。費目別には住居の(+)7.7%が最も大きく、ついで雑費の(+)6.7%、光熱の(+)5.3%、被服の(+)3.2%と、いずれも上回っており、食料は最も小さいが、(+)2.1%となつている。

全 都 市 消 費 者 物 価 指 数 (大分類) 昭和30年=100

年	総 合	食 料	穀 類	そ の 他 の 食 料	被 服	光 熱	住 居	雑 費
昭和21年平均	15.1	19.9	17.4	21.7	17.1	8.6	14.4	6.1
22	32.4	40.1	33.3	45.3	47.6	20.9	27.0	15.2
23	59.4	67.0	60.6	71.7	88.7	46.5	45.4	38.4
24	78.3	84.1	69.6	95.6	120.0	58.9	59.2	58.3
25	72.9	75.2	69.3	79.5	94.8	63.9	60.4	61.5
26	84.9	86.6	78.1	93.0	120.8	73.7	75.4	71.5
27	89.1	89.9	85.8	93.1	103.3	87.2	82.3	83.5
28	95.0	95.3	94.8	95.7	102.9	97.8	90.9	91.1
29	101.1	103.1	102.5	103.5	103.9	100.4	96.1	96.9
30	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
31	100.4	98.8	94.7	101.3	99.7	101.7	108.4	101.7
32	103.5	102.5	98.8	104.6	100.1	110.7	114.5	103.2
33	103.0	101.2	101.6	101.0	97.2	107.9	116.6	105.2
34	104.1	101.8	100.9	102.4	95.3	106.6	121.1	108.5
35	107.9	105.7	100.9	108.6	97.3	112.3	127.9	111.6